

予防鍼灸研究会（SGPAM）

## 第 20 回定例会抄録

テーマ：東洋医学と西洋医学をつな  
ぐ気とエネルギー

2025年1月26日

## 目次

「ゼロワンボール」からの実践的学びの報告 .....	一ノ瀬宏2
生体の機能からみた経絡と気.....	鮎澤聡3
エネルギー代謝から見た脳のネットワーク.....	渡辺宏久4

## 「ゼロワンボール」からの実践的学びの報告

鍼灸和友堂 一ノ瀬宏

【はじめに】私は、第9回定例会で「鍼灸臨床の序章 刺さない鍼の実技供覧」を行った。2017年の「医道の日本」に「ツボとつぼ（壺）の違い」を述べ、ツボは圧痛硬結として真皮、結合組織、筋膜、筋肉に存在するもの。他方、つぼ（壺）は皮膚の角質層から極めて浅い部位に壺状に存在するものとして区別した。【目的】今回は、試作考案したゼロワンボール（重さ130g、直径30mmの鉄玉）を用いて、つぼと気のかかわりに新たな見解を得たので、症例を含め報告する。【症例】75歳女性、元福祉施設管理者。主訴：腰が重く、起居動作時痛がある。既往歴：25歳で子宮外妊娠のため右卵巣摘出、その後、乳がんのため右乳房摘出。経過：初診：頸部左外側から肩上部、腰までの凝り。左外反拇指。試験的に何ヶ所かゼロワンボールを当てたが、患者の反応は特になし。4診目：腰痛治らず。2年間痛み止めと降圧剤を服用し、常に胃がむかむかし、げっぷも多い。7診目：胃のむかむかがとれず、犬の散歩が辛い。再度、両手両足の井穴にゼロワンボールを当ててみると、左手の井穴と左陰白（SP1）、左太衝（LR3）のつぼにゼロワンボールが収まる感じがあったので、左の陰白と曲泉（LR8）のつぼ、標治的に腰部左側のツボにてい鍼を当てたら、今までになく体が温かくなり楽になった。【考察】鍼灸臨床におけるツボとつぼは統合的網羅性から経絡をなし、立体的、空間的、宇宙論的に繋がりがあり、気は大気(地球を生み出した)で、人体の主体性に関わりがあると推察される。【結論】ゼロワンボールは術者の恣意と自我の影響を受けず、皮膚表面にある虚実の判断に有用である。(本文687字)

### 略歴

日本鍼灸理療専門卒業

雑司が谷診療所物療科勤務

1981年から和友堂院長

## 生体の機能からみた経絡と気

筑波技術大学保健科学部 鮎澤聡

経絡は生体の何らかの機能系であると思われる。今、機能を、生体の全体性・秩序を維持生成する働き方、とひとたび定義すると、機能と活動を分けて考えることができる。活動は、現象において対象の時間変化として外部観測が可能である。しかし、機能とは働き方であり、そもそも時空に定位できるものではなく、外部観測ができない。よろこんでいる人は観測できても、よろこびそのものは観測できない、ということである。同様に、生きている人は生命活動として観測できるが、生命そのものは観測できない。生命とは、空間で外部観測される対象ではなく、空間そのものとして捉えるべきなのではないだろうか。では、鍼灸手技治療のような機能的な治療はどのように成立するのだろうか。従来型の観測による対象の操作というプロセスは、活動の治療といえる。一方、機能の相互干渉を通じた新しい機能の創出が機能的治療であり、いわば、生命空間の絶え間ない生成であって、演者はここに「気」をみてとっている。また、そこにおいて経絡は、人と人、あるいは人と自然とのつながりにある空間といえる。新しい機能の創出、すなわち「健康を創り出す」という視点が、鍼灸手技治療の存立根拠として重要であると演者は考えている。また、この生成過程の理解には、先験的な時空間を用意する従来の科学とは異なる、「生きていることが時空間を創り出している」という新たな知が要請されよう。(本文609字)

### 略歴

1986年 筑波大学医学専門学群卒業

1998年 筑波大学大学院博士課程医学研究科卒業

2018年 筑波技術大学保健科学部教授

秩序生成や自然治癒力といった生体の機能や機能的疾患の治療に関して学際的なアプローチを試みている。

日本脳神経外科学会認定医、日本臨床神経生理学会認定医（脳波部門）

人体科学会会長(2010～2015年・2019～現在)

著書『身体の知』ビイング・ネット・プレス(共著)など

## エネルギー代謝から見た脳のネットワーク

藤田医科大学医学部脳神経内科学 主任教授 渡辺宏久

### 略歴

藤田医科大学 脳神経内科学教授、博士(医学)。

三重大学卒業、名古屋大学医学部附属病院神経内科講師、名古屋大学脳とこころの研究センター特任教授を経て、2019年より現職。

専門分野:脳神経内科全般、神経変性疾患(パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、前頭側頭葉変性症をはじめとする認知症など)